

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

原発事故に思う

事故以降続く放射能汚染と風評被害

長期に渡っての対応が必要

おこつて欲しくない
と心配してしまいが
現実となつてしまいま
した。福島県の旧福島
市3地域の米から、国
の暫定基準を超える放
射性セシウムが検出さ
れてしまったことです。
政府は当該地域の米の
出荷停止措置を福島県
に提示しましたが、事
前の調査結果から米の
作付けが可能であると
判断されたから植え付
けし、収穫されたはず
です。

しかも、これで終わ
った訳ではなく、今後
も予想もしない場所や
物から汚染が見つかる
可能性があると、思わな
くてはならないでしょう。
その度ごとに福島県全
体の農産物に対する消
費者の皆さんの評価の
目はさらに厳しくなつ
てまいります。大変な

ことでしょうか。農産物
はもちろん、すべての
品物や土地についても
できるだけ細かく検査
を繰り返し、そのデー
タを公開していくしかな
いでしょう。

それでも「風評被害」
が完全に払拭されるの
はむずかしく、福島県
全体の生産者に根拠の
ない悪評を克服するため
物心両面で更に長期間
に渡って過酷な対応を
迫ることになります。

しかも、放射能の半減
期(セシウム137)の
半減期は約30年)を
考えると、一度汚染さ
れた農地が元に戻るに
は気の遠くなるほどの
年月が必要ですが、そ
の間は否応なしにそれ
と向き合っていくかな
ければなりません。

放射性物質の「除染」
と称して色々な作業が
試みられています。が、
人間や農産物の放射線
からの被害を少しでも
避けるための手段とし
ては必要であり有効で
しょうが、放射性物質



から放射線を出す能力
を消し去ることも減少
させることもできません。
水で洗い流しても放射
性物質はどこかに流れ
着いて集積するだけで
すし、農地にカリなど
を散布するのも放射性
物質を吸着させて作物
に吸われにくくするだ
けで、放射性物質をな
くせるわけではありま
せん。それが放射能の
もつ特異性だと私は思
います。それでも地域
のため、子供たちの将
来のために、長期間に
わたつてできることを
やり続けなければなら
ない皆さんのご苦労を
思うと心が痛みます。
被災地域の避難者や生

産者と、様々な交流・
支援活動が早くから継
続して行われていて、こ
とに心が熱くなります。
地震と津波は自然災
害でしょうが、原発事
故は明らかに人災です。
科学技術への過信と安
全性に対する軽視、経
済効率優先がもたらし
たものです。自然に対
する畏敬の念と自然と
の共存・共生について
改めて問い直すことが
求められているのでは
ないでしょうか。

ささやかではあつて
も有機農業に関つてい
る一員としては、有機
農業を通して自分自身
が何をしてきたのか、
これからは何ができる
のか、改めて考えるこ
とを迫られているので
しょう。

すでに今年も残り少
なくなつてしまいました。
この一年間、個々の皆
さんにはそれぞれに様々
なことがありだつたと
思われます。最近では
私たちの営農活動は
もちろん、日々の暮ら

**お米・農産物の
放射性物質検査**

厚生労働大臣登録検査機関
財団法人
マイコトキシン検査協会

TEL 045-506-1151
神奈川県横浜市鶴見区大黒埠頭15
<http://www.mycotoxin.or.jp/>

新潟産コシヒカリ	
1等	71%
2等	28%
3等	1%
規格外	0%

23年度米穀検査結果
米ニケーションセンター検査分
(10月末迄の検査分)

しまでも、世界の経済
や日本の政治動向にス
トレートに繋がってい
るように感じます。そ
れは当然のごとく強者
の理論の押しつけとし
て私たちに迫ってくる
ものばかりです。

新年は生活者や生産
者の繋がりを強め、反
撃の年にしたいもので
す。
(内山常蔵記)
